

第1回検討会におけるご意見のまとめ

【まちづくりとの関連について】

- ・ 新たな街づくりの方向性が近くわかる。2027年に小田急多摩線の検討の結果が出る。2031年には国の答申があると言われている。2035年ありきで進めてほしくない。
- ・ 他市のように小規模特認校として残していくなども考えられるのではないか。
- ・ 学校統合はまちづくりと一貫してやるべきものである。
- ・ 一番の問題は今後のまちづくり。地域が大きく変わる可能性があるので慎重に進めるべきである。
- ・ 最近相模原から町田に流入してきていると聞く。学校が近くにあるのが大事になる。
- ・ まちづくりの大前提として、駅とか道路とかのインパクトが大きいけど、これは非常に難しい。何十年と検討はあっても実現していないので、すぐに結論が出るとも思えない。
- ・ 少子化は止められないと思っている。この地域だけ子どもが増えるとは思えない。
- ・ 10年くらいあっという間。社会が変わっていくスピードは速い。子どもの未来を考えるとゆっくりしていられないと思う。子どもたちの未来をつくっていった方がいい。
- ・ まちづくりも含めてワクワクするようなことも大事。いろいろな視点で考えていきたい。
- ・ 少子高齢化が進み、賢く縮んでいくことは必要だと思っている。
- ・ まちづくりと学校統合がうまくはまるならいいけど、両方がうやむやになってしまい中途半端になってしまうことを懸念する。

【通学に関して】

- ・ やはり一番気になるのは通学。遠い。スクールバスといった話も聞いているので、そこは重要だと思う。
- ・ 小山田は学区が広いのが問題。多摩市境から小山田南小は遠い。
- ・ 小山田は見た目の距離以上に山坂があって通学は大変だ。
- ・ 学区が広がると、大沢地区の子はバス通学で負担がかかることになり格差が生まれる。
- ・ 子どもの毎日のことを思うと、遠いのは大変だと思う。
- ・ 登下校の手段の確保、駐車場の整備などがあれば親は安心すると思う。

【地区の魅力に関して】

- ・ このあたりは緑がたくさんあり、自然が多い。これは子どもにとって大切だと思う。
- ・ 小山田小の田んぼ学習。身近なところで学校と一体となって子どもを育てている。
- ・ 色々な体験ができる良さがある。
- ・ 小山田南小でも自然豊かな特色を生かした教育を行っている。両校とも地域の魅力を享受している。
- ・ 小山田小は地域の方から場所を借りて田んぼで作業をさせてもらっている。1日かけて田んぼに行く授業があってもいいと思う。特化した特色をつくりたい。

【子どもたち中心の考えに関して】

- ・ 外国に行くと子どもたちが活発に活動している。日本はそうではない。新しい学校、公立小学校で何を提供できるかを考えていきたい。
- ・ 安全で楽しく通える学校を作っていただきたいと思っている。
- ・ 中学になったらどうせ小山田中で一緒になるので、早くから仲良くなれるならその方が良い。子どもにとっては友達が一番。子どもの意見も大切。子どもたちの交流などができたらと思う。
- ・ 今も学校から遠いところに住んでいるが、学校施設の老朽化などの話を聞いて、統合も当然だなと思っている。
- ・ 校舎の老朽化は大きい問題。安全な環境が必要だ。
- ・ 新しくできた学校を見ると、いいなと思うし、古い校舎はかわいそうなところもある。
- ・ 10年後の子どもたちの場を考えたい。
- ・ 教員としては、未来の子どもたちのためにという部分が大事だと思っている。

【その他】

- ・ この会議の主旨は何か。いい学校をつくっていくための前向きな議論の場だと考える。
- ・ 統合するから新しいことができるとか、前向きなところを考えたい。
- ・ 学校づくりの取り組みには多くの請願が出てきている。教育委員会にはこれまでの経験などを共有してもらえたらありがたい。
- ・ 先のことをどこでどう見極めるかの議論がいる。決めていかないと話に入っていけないのではないかと思う。
- ・ こじんまりとしているのもいいとも思うが、一方で先生が大変なのも見ている。人数が多くなると嬉しいなと思う。
- ・ 単学級のいいところもある。先生が大変なのは確か。町田市職員として派遣するなどの支援が絶対に必要。
- ・ 小山田小から離れていく通学区域緩和制度に疑問がある。
- ・ 小山田南小の子どもは純粋でキラキラしている。地域にも応援してもらえるような議論をしていきたい。